

スマレ

Viola mandshurica

スマレ科



スマレ

名前の由来

花の形が大工の使う墨つぼに似ているということで、「墨入れ(スマイレ)」から変化した名前だと言われている。漢字名は中国でスマレの一種を指す「堇堇菜」という漢名が誤用されたものと言われている。漢字名：堇

形態的特徴

葉や花は茎からではなく根元から直接のびるのが特徴。葉はへらのような形で長い柄を持ち、柄にはひれがある。花は直径2cmほどで、濃い紫色。花の後ろの「距」と呼ばれる

つき出た部分は、細長いに変化が多い。

類似種：特になし。



スマレ



スマレ。距は紫色

その他のスマレ類



タチツボスマレの花。距は長く紫色



エゾノタチツボスマレの花。距は白く短い



オオタチツボスマレ。側弁基部は無毛で、白く長い距が見える

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

草原や、丘陵地、海岸草地などのやや乾燥した日当たりのよい場所に散在する。

分布：国外分布は、南千島・朝鮮・中国・シベリア東部。

国内分布は、北海道から九州（屋久島）。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、草原や、丘陵地、海岸草地などのやや乾燥した日当たりのよい場所に散在する。



スマイレはやや乾燥した所に生育する

生活史

開花時期：5月中旬～6月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

タネの付着物（エライオソーム）はアリが好み、巣まで運ぶ。（→興味深い話の項参照）

ミドリヒョウモン、ウラギンスジヒョウモンなどのヒョウモンチョウ類の幼虫の食草となっている。



ミドリヒョウモン(裏)。スマイレなどのスマイレ類を幼虫時の食草とする
(標本-吉原利之氏所蔵)

興味深い話

■果実は熟すと風で揺れた拍子などで3片に勢いよく裂け、その裂開力によって中のタネをはじき飛ばし、タネをより遠くへ分散させている。

■スマイレ類のタネにはアリが好む付着物(エライオソーム)がついており、それを目当てにアリがタネを巣まで運ぶ。アリは巣の中で付着物はずした後、タネそのものはゴミとして巣の外へ運び出す。このように、スマイレ類は自力でタネをとばす他に、アリに運ばせることによってより遠くまでタネを分散させている。アリを使ってタネを分散させている種はスマイレ類のほかに、カタクリやエンレイソウ類があげられる。

■学名の *mandshurica* は昔満州と呼ばれていた中国東北部に由来し、分布の中心が大陸であることをうかがわせる。



スマイレ

配慮事項

生育している環境全体が大切である。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本山野草・樹木生態図鑑」沼田真 全国農村教育協会 1990

「山溪ハンディ図鑑6 日本のスマイレ」いがりまさし 山と溪谷社 1996

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994